

イエスはまなり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創設されたキリスト教の新しい祈祷運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 177号

「祈りの実現 アブラハムのしもべの祈り」

岡山 敦彦



アブラハムは百三十七歳の時、最愛の妻サラを天に送りました。その後も、神は彼を祝福してくださいました。彼が百四十歳になったとき、長年の祈りの課題であったひとり息子イサクの配偶者を主が与えてくださることを強く願いました。それで、彼は自分の全財産を管理している家の最年長のしもべに、イサクの花嫁捜しを委ねました。年長いたアブラハムにとってそれは最善のことでした。彼はしもべに二つの条件を提示しました。一つは、カナン人の娘の中からめとってはならないこと。もう一つは、息子を花嫁の地に連れ帰ってはならないとのことでした。しもべは、十頭のらくだと貴重な品々を持って、アラム・ナハラタイムの町へと向かいました。そこは、アブラハムの故郷でもありました。

しもべは長旅の後その町に着き、町の外の井戸のほとりで主に祈りを捧げました。自分が井戸に水汲みに来た娘に声を掛け、「どうかあなたの水がめを傾けて私に飲ませてください」と言った時、「お飲みください。私はあなたのらくだにも水を飲ませましょう」と答えた娘こそ、イサクの花嫁にふさわしい女性だと確信しますと祈りました。彼がまだ祈り終らないうちに、リベカが水がめを肩に載せて現れました。彼女は、アブラハムの親戚で、イサクのいとこの娘でした。しもべが彼女に「少し水を飲ませてください」と頼むと、彼女は、彼に水を飲ませるだけでなく、十頭のらくだにも十分な水を汲んでくれました。しもべは、黙って彼女の働き振りを見ていました。そして、この女性こそ、イサクの花嫁にふさわしいと確信したのです。彼女は、しもべに水を飲ませるだけでなく、長旅で水を必要としている十頭のらくだにも十分な水を与えました。額に汗してかいたがいきしく働く、その働き振りを見て、しもべは自分の祈りが主に聞き届けられたと確信したのです。

もう一つ忘れてはならないことがあります。しもべは主人アブラハムにイサクの花嫁捜しを任されて、カナンの地を出ました。彼は、その任務の大きさを誰よりも良く知っていました。数百キロの旅、一か月以上の旅の間、彼は祈り続けていました。ナハラタイムに着いて、思いつきで祈ったのではありません。彼の長旅の間、祈り続けていた祈りに主は答えてくださったのです。

私たちは、信仰に根ざした祈りとはっきりとした祈りの実現を通して、主をほめたたえ、主の恵みとまことに感謝することができるのです。

(日本同盟教団大分恵みキリスト教会牧師)

霊 想



「わたしは主」

出エジプト記6章2～9節

青梅教会牧師 有馬 歳弘

ヨセフの時に総勢70人がエジプトに移住しました。それから何世代（創世記15・13によれば400年）も年月が流れ、「ヨセフのことを知らない新しい王が出てエジプトを支配」していました。歓迎され、迎えられたイスラエルは「おびただしく数を増し」たため新王朝にとって脅威となっていました。イスラエルは奴隷とされて苦しみに呻いていました。モーセは神様の摂理によって、イスラエルの男子を殺す政策の中で命が守られます。しかもファラオの娘に育てられます。彼は自分がイスラエル人であることを知って、何とか同胞を救おうと努力します。しかし、昼間はイスラエル人の近くに生活しても夜には宮廷に帰るモーセを人々は受け入れてくれません。ある時、イスラエル人のひとりが出エジプト人に過酷にいじめられているのを

見て、耐えられなくなりエジプト人を殺して死体を隠します。その後イスラエルの人同士がいさかいをしているのを見て仲裁に入るので、「エジプト人を殺したように」我々にも同じことをするのかと言われ、彼は恐れてエジプトから逃亡しミディアンの野に逃亡します。彼の一生懸命な努力は無駄でした。「燃え尽き症候群」と言える状態になります。

その後、ミディアンの野でエトロとその家族に出会い結婚をして平和な家庭を築き、アットホームに恵まれていました。ある日、モーセはホレブの山で燃え尽きない不思議な柴の炎に出会います。この炎は神の情熱を示していると言えます。「主は言われる『わたしは、エジプトにいるわたしの民の苦しみをつぶさに見、追いつく者のゆえに叫ぶ彼らの叫び声を聞き、その痛みを知った。それゆえ、わたしは降って行き、エジプト人の手から彼らを救い出し、この国から、広々としたすばらしい土地、乳と蜜の流れる土地、・・に導き上げる。見よ、イスラエルの人々の叫び声が、今、わたしのもとに届いた。また、エジプト人が彼らを圧迫する有様を見た。今、行きなさい。わたしはあなたをファラオのもとに遣わす。わが民イスラエルの人々をエジプトから連れ出すのだ』（3章7～10節）。この「見た」「聞いた」

「知った」は心に残ります。燃え尽きない情熱の神様の思いを知らされます。

モーセはこの神の召命に対して、素直に応じることはしません。最後には神様は、お怒りになるくらいでした。ここで、新しく神の名が教えられます。「わたしはある。わたしはあるという者だ」と。これは確かな存在といってもよいでしょう。しかし、大きな岩とか、像のように動かない存在ではなく、ここでは動的な意味が込められています。

アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神は契約を忘れない神であり、歴史を導く神です。ここで、燃え尽きない神のイスラエルに対する熱情は変わらない確かさを持つています。この熱情こそ、やがて、イエスキリストを誕生させ人類を救いへと導かれる神の熱心です。

モーセは神の説得に改めてエジプトに行きます。そこでは、多くの奇跡がなされます。第一の災いは「血の災い」です。第二の災いは「蛙の災い」です。第三の災いは「ぶよの災い」です。第四の災いは「あぶの災い」です。第五の災いは「疫病の災い」です。第六の災いは「はれ物の災い」です。第七の災いは「雹の災い」です。第八の災いは「いなごの災い」です。第九の災いは「暗闇の災い」です。第一から第三の災いに

おいてエジプトの魔術師たちは「これは神の指の働きでございませう」と言っています。それでもファラオの心は頑なです。第四の災いからその及ぶ地域が明確になります。エジプトには災いが及ぶがゴシエンの地（イスラエルの居住地）には害がないのです。このようにして、ファラオが「主なるわたしがこの地のただ中にいることを知るようになる」（8章18節）と言われます。最後までファラオの心は頑なです。そして第十の災い「エジプト中の初子最初に生まれた子供が殺されるといいます。ファラオは神に逆らうこの世の権力を代表しています。神様はモーセに告げられました。「それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。わたしは主である。わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、奴隷の身分から救い出す。腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う」（6章6節）。神様は奇跡によって「主」であることを明らかにされます。一つはイスラエルの民に対して。もう一つはエジプト人、そしてファラオに対してです。「わたしは主である」とは神の完全な能動性によってなされるみ業の宣言です。私たちは、それを受け入れ、信じ従うのです。

証「アシユラムの報告と恵」 立 横濱岡村教会 坂本 浩

第33回岡村アシユラムが7月12・13日に開催されました。今年の助言者は、横濱岡村教会・安藤脩牧師が務め、証し者に伊藤得子姉(日本ホーリネス教団直轄)をお迎えすることができました。2日目の福音の時(聖日礼拝)の証しをお願いしていましたので、当日来られるのかと思ひ込みで準備していたところ、12日の早々においでになりました。

『アシユラムは全プログラム参加』という姿勢を私たちに見せて頂きました。ご主人と共に、主に忠実に従ってきた歩みの証しを聞くことができ、感謝でした。

1週間前より備えの準備祈禱をスタートしました。初めの4日間は自由時間での祈禱ということになっていましたが、今年は久しぶりに金曜日の正午から土曜日の正午まで、24時間連鎖祈禱を行うことになりました。1時間ごとの担当割りで真夜中の時間帯の方もいましたので、中には祈禱が途切れることが無いよう、大変な緊張状態で自分の時間を迎え、祈りを捧げることができたという話も聞きました。

今回このような記事を執筆するにあたり、アシユラムとは自分にとって何なのか、ということ改めて考えてみました。日常生活や労働から離れて、全てをキリストに明け渡し、服従することから始まりま

す。そして、御言への静聴と立証・聖霊の導きと充滿・教会への奉仕と伝道・神の国の体験と献身というアシユラム五大原則に従ってプログラムが進められる集会です。

私は過去十数回岡村アシユラムに参加してきましたが、この集会には、それぞれが日頃抱えている課題や願ひ(ニード)を神や人の前に公にし、互いに祈り合う(一年間)良き交わりの時であるとイメージして

いました。したがってあまり深く知ろう、理解しようとしていませんでした。しかし、前述の記念誌や資料等に目を通す中で、これまで自分のアシユラムに対する理解と姿勢が如何に乏しかったかに気付かされました。先ず全てを主に明け渡すことができている自分があり、そんな状態で主に服従できるわけがありません。それでは、どうあるべきなのか。

日常生活においてこそ、心を静めて主と相対し、祈り、聖書を読み、御声を聴く時間を確保し、継続することなのではないでしょうか。今は年に一回のアシユラムへの参加ですが、日々毎日アシユラムという姿勢が必要なのだと思います。しかし、人は簡単に変わるはずもあ

りません。だからこそ、アシユラムのような集会に参加し続けることで、姿勢を身に着け、霊的に成長をして行かなければならないのだと思います。

今回の主題は「造り主の姿に倣う」でした。「そんなことは恐れ多くて無理」とつい言ってしまうますが、イエス様が現してくださったその御姿を信仰生活の雛形として、一足一足近づいて行こうとする姿勢と覚悟が大切ではないかと、今回のアシユラムを通して教えられました。

第29回浦和別所教会

アシユラム報告

浦和別所教会 山田 柁子

「主のみ心を求めて」

二〇一四年度の浦和別所教会『みことばに聴く』(教会アシユラム)が、六月一四日(土)一九時より一五五(日)一五時三〇分まで、主日礼拝を含む形式で、今年も例年同様のプログラムで行われました。

二〇一五年は、日本のアシユラムが、スタンレー・ジョーンズ師によつて紹介され六〇年を迎えることです。当教会は今年、第二九回目のアシユラムとなりました。振り返りますと、アシユラム運動の六〇年の



歴史の中に、別所教会もそのほぼ半分の年数を歩ませていただいていること、その恵みは大きなものであることを覚えます。

アシユラムの主題は教会の年度の聖句です。今年度は、エフェソの信徒への手紙四章15節。み言葉を思ひめぐらしつつ、開会礼拝にはマタイによる福音書二八章一〇〜二〇節の主イエスの宣教命令のみ言葉から「いつもあなたがたと共にいる」との恵みを聴き、始めました。

開心の時は、七人以下の小グループに分かれ、自分のニードを言葉で表現し、お互いのために祈り合い、連鎖祈禱に向かいました。連鎖祈禱の場所は、自宅または教会で多

数の方々に参加をしてもらいます。この連鎖祈禱から参加される方もあり、翌日の礼拝・充滿の時までの間で、神様との豊かな交わりの時が与えられます。

翌朝、「恵みの分かち合い」の時間に祈りとみ言葉を通して与えられた恵みを、小グループで分かち合います。2回の静聴の時は、全員で同じ聖書箇所を共に読みます。今回は、使徒言行録12章〜15章までを2章ずつ読み、恵みを分かち合いました。

主日礼拝においても、備えられたみ言葉が語られ、聖霊の働きが豊かに出席者一人一人に注がれます。特に今年には、別所教会にとって

「会堂建築」という大きな課題を与えられています。これからの歩みのために、教会員が主のみ旨を聴き、一致してこの業に向かいたく願っています。キリストのみ体である教会を建て上げ、主のご栄光が現されることを祈りつつ、前進していききたいです。

第52回 関東アシラム報告

安藤 脩

今年のアシラムを一言で表現するなら「穏やかな、落ち着いたアシラム」だったということです。

昨年もそうであったように、台風直撃により欠席者があったり、帰りの



2014.9.17 第52回関東アシラム 山崎製パン焼山荘にて

道路や飛行機は大丈夫だろうか心配し、心穏やかでないアシラムが近年多くありました。

今年は大変気候が不順で、地域により集中豪雨で大災害が起こった所も多くありますが、今年の箱根は実に穏やかでした。

気候ばかりでなく、穏やかである原因の一つには、委員会や、場所をどこにしようかと悩む必要がないということ。山崎製パンの箱根山荘を関東アシラムで優先的に用いさせていただき、今年で19回目となりました。食事がおいしい上に、費用的に安くいただいているの

で、委員会として運営が大助かりです。

60周年記念誌発行に関してや、来年開催するアン・マシューズ女史（スタンレー・ジョーンズ師の孫娘）を迎えての全国アシラム（関東アシラムもこれに合流する）等についても話し合うことができました。それと、昨年に引き続き、今後のアシラム運動の活発化、大会参加者増加のための方策などについても話し合いました。（これらはファミリーアワーでの話題にもなりません）

昨年、初参加の教職や神学生は参加費無料とし交通費も補助するとしたことを、今年も継続しました。そのかいあって、連続して参加下さった教職、また久しぶりに、救世軍からの参加、新たに、兄弟団からの参加があったことも嬉しいことでした。

今年の助言者は内部奉仕者で有馬歳弘師（青梅教会・関東アシラム委員）。主題は「わたしは主である」（出エジプト6:2-8）でした。「燃える柴」から、モーセの燃え尽き症候群のように、ご自身のビジョンが燃え尽き、氣力を失ったこと。しかしその人間の燃え尽きに対比し、神の情熱は消えることがない。モーセのように聖なる場所で靴を脱ぎ、主の主導権に身を委ねなけ

ればならない。私たちにとつての聖なる場所とはどこか。それは教会であり礼拝である。今わたしたちが主に出会うとしても、その神はアブラハム、モーセに出会った、情熱を持ち続けている神である。そしてその神は「インマヌエルの神」われらと共に居られる神である。その同じ主なる神に身を委ねようとチャレンジされました。

参加者41名（内・初参加者5名）

地区アシラム予告

●第48回関西アシラム

とき 14年10月12日(日) 13(月)

ところ 母の家ベテル

主題 「教会への奉仕と伝道」

助言者 大門義和師（日本キリスト教団豊中教会牧師）

●第6回函館栄光キリスト教会

アシラム

とき 14年10月12日(日) 13(月)

助言者 横山義孝（東京新生教会協力牧師）

アシラム

〒一八一〇〇一一 三鷹市井口3-15-6
池の上キリスト教会内

日本クリスチャン・アシラム連盟
振替口座 東京〇〇一〇〇一―四五五八